

とよ・たち美肌通信

2月号 vol.127



Feblovely

今月号のとちたち美肌

通信の表紙は、とっても

大きなゆきだるまです!!

今年にはたくさん雪はふるかな?

雪あそびしたいですね

バスケットボールをやる事が好きで、

ドリブルや、歌やダンスが得意な

男の子が描いてくださいました。

院長はじめスタッフ一同

じゃり感謝いたします

2月号の「よ・たち」は令和3年1月3日に書いています。
皆様の目に留まるのは令和3年も早いヶ月経過した
2月であり、時の経つのは早いものです。さて“時”に
関する一つの考え方を紹介します。「一時間は一分が
60回。一日は一時間が24回。ひと月は一日が30回。
一年はひと月が12回。十年是一年が10回。十年後ど
んな自分になっているか。何となく今よりも良くなってい
ると思っている人が多い気がする、何と甘いことか。
しかし今の生き方がそのまま十年後のその人の生き方
であり、むしろ年を取っただけ人生は下り坂になっている
であろう。棟方志功は「三万六千五百朝」と言った。
これは百歳まで生きたとしても朝は36500回しか来
ない。これを多いと取るか少ないと取るかは人それぞれ
である。時に人生は山登りに例えられる。山登り
には登っている人と下る人がいる。ある賢人の金言、
「90%の人は山を下りている。90%の人は力を出し切
っていないからだ。人生の山に登っている人は10%だ」
と。そこに年齢は関係していない。

受験シーズンも佳境に入るが、以前林修氏が
こんな事を言っていた。受験まであとひと月という時に
必ず生徒に言う事がある。

“このひと月 頑張るか頑張らないかが君達の一生を

決めるよと。①ひと月頑張って受かる人がいる。②ひと月頑張ったけど落ちる人がいる。③一方でひと月頑張らなかつたけど受かる人がいる。④そして、ひと月頑張ることなく落ちる人がいる。このパターンの中で①と②は良い。②はひと月頑張れたが準備不足で落ちたという理由が明確だからだ。問題は③と④。受かった受からなかったに拘わらず、最後のひと月でさえ頑張れなかつたという事実、これを一生引きずりたまま生きていく。実はひと月頑張れるという事はすごい事で、そういう人は1年頑張れる。1年頑張れる人は10年頑張れるし、10年頑張れる人は一生頑張れることが出来ると林氏は生徒にいう。

更に林氏は受験というのは受かる受からないという事よりも人間力を試される場であり、これを10代のうちに経験しておく事に大変意味があるという。自分は一ひと月頑張れたぞという自信を持って生きていける糧となるのであろう。今、目前にある問題に覚悟を持って全力を尽くす、そう解くのであろう。

詩人 坂村真民先生の「こつこつ」という詩である。

こつこつ こつこつ書いてゆこう

こつこつ こつこつ歩いてゆこう

こつこつ こつこつ掘り下げてゆこう

人生を歩き続けるとは、何れ問はず命ある限り成長し続けることであらう。私もかく人生を生きたい。 院長、拝